

職の風景

8

ネット社会に収入源

山梨県南アルプス市の小沢清和さん(36)は午前2時に目を覚ますと、パソコンの画面に向かう。ホームページなどのデザインをする仕事を済ませ、午前7時にはブドウが実る農園に出かける。

小沢さんは4年前、実家の農業を継ぐため東京から古里に戻った。インターネット関連の転職先を探したが、農業と両立できる求人はいなかった。

そこで、企業が外注する仕事をネット上で個人に仲介する「ランサーズ」(東京都渋谷区)のサービスを利用し、フリーランスとして仕事を請け負うことにした。農業の繁忙期に合わせて仕事の量を調整できる。

「二つの仕事をする事で片方がうまく行かない時も冷静になれる、柔軟な考えができる」と、「二足のわらじ」の効用を指摘する。

こうしたサービスは「クラウドソーシング」と言われる。仕事の受注から納品まで、すべてネット上で済む手軽さが受けて、年々利用者が増えている。

海外移住の夢をかなえた人もいる。福岡市の藤清貴さん(32)は、2012年から1年間、ハワイに移住した。「仕事をしながら北海道を一周するのが次の夢」と言う。

ネット社会ならではの働き方は、「職」の固定観念を軽々と打ち破る。

「はい、MasuoTVです」。ビデオカメラに向かって動画を撮影するのは、新潟出身で元マッサージ師のMasuoさん(25)だ。本名は明かしていない。

変わった料理に挑戦したり、自宅で科学実験を行ったりした動画を、投稿サイト「YouTube」で毎日公開する。動画の再生回数に応じて収入

が得られる。企業から商品紹介の仕事も舞い込む。約40万人の固定ファンがあり、これだけで生計を立てている。「普通の人間が面白いと思



自宅で仕事 望み通りの生活

ったことを動画にするから共感されるのかも。好きなことで生活できて幸せ」
彼ら「YouTuber」の所属事務所「Uuum」の鎌田和樹代表(31)は「芸能人より発信する力を持つ人もいる。一つの職業として広く認知される時代がきつと来る」と話す。

奈良市の中村実千男さん(43)は、04年に妻と離婚し、当時4歳と1歳の息子を抱えたシングルファーザーになった。

近所の両親や姉に子供を預け、大阪府の勤務先で早朝か

▲投稿した動画の広告収入などで生活する「YouTuber」のMasuoさん(昨年12月、東京都港区で)＝横山就平撮影

ら深夜まで働く生活が始まった。子供の顔を見る時間はほとんどない。心身ともに追い込まれた。そんな時に見つけたのが、コールセンター会社「NTTコムチェオ」の仕事だった。

同社と業務委託の契約を結び、在宅での電話相談や近隣への訪問業務を、自分の都合に合わせて行う。生活はがらりと変わった。子供の授業参観に出たり、PTA活動に参加したりすることもできる。

「この仕事があれば、絶望してどうなっていたか分からない」

人はいろんな事情を抱えている。望み通りの仕事をできない人もいる。働き方の選択肢が広がれば、日本の活力になる。